

岩下有司氏の景気循環論によせて

小松善雄

岩下有司氏は一筋の人である。その一筋とは景気循環一筋の人ということであるが、その一筋につながったことが氏の研究に豊饒さをもたらすことになる。

岩下氏は京都大学経済学部の木原正雄ゼミで社会主義経済論を学び、名古屋大学経済学部大学院では大島雄一氏から理論経済学分野で鍛えられるなか、インフレーション論を研究するなど、大方の研究者にとっても身に覚えのある青春の彷徨を経たのち、1974年に中京大学商学部講師に就任され「景気変動論」を担当。

以降、「戦後資本主義の循環と構造」の把握をメインテーマとして富塚良三、井村喜代子、宇野弘蔵、置塩信雄氏らの恐慌論を検討するなか、1982年には景気循環論にテーマを絞り、10年余の歳月をかけて1994年に『景気循環の経済学—10年周期の解明—』（勁草書房）を上梓する。この著書により、氏はマルクス循環、またジュグラー循環ともいわれる10年周期の中期循環論の主要なトレーガー、もっともアクティブな擁護者の地位を確立される。

では岩下氏はいかにして10年周期説に導かれたのか。そのきっかけは、氏の語るところによると1981年、商学部附属中小企業研究所で機械工業集積地である愛知県の地の利を生かした共同調査を始めるとともに、山下幸男氏を中心にメカトロニクス研究会を始めることになったことに由来する。

この調査研究で氏は設備投資—投資行動に焦点を当て、度重なる実態調査によって自己の理論仮説を検証するうちに中小型機械については10年間使用予定の場合が最も多いことを検出、上記諸氏らの恐慌論・投資行動論への批判視角を定礎することになる。ちなみに氏の実態調査を集約した論作が「景気循環と設備投資」（『中京大学経済学論叢』第4号、1992年12月）で、前記『景気循環の経済学』に「付論 投資行動に関する実態分析」と改題の上、収録されている。このように氏の10年周期説は確たる実証的基礎にもとづくものであるが、同時期、氏はまた「固定資本の更新と産業循環の周期性」（『中京大学

『経済学論叢』第2号、1989年12月)などの理論論文もまとめている。それゆえ、前記『景気循環の経済学』はこれら理論面、実証面の両面からする息の長い追究の結実であったのである。

さて1990年代はIT革命とグローバリゼーションの大きく進展した時代であったが、これらの変貌が景気循環にいかなる影響を与えているかが問題となる。

この点を明らかにしようとした論作が氏の「マルクス・エンゲルスの周期短縮論」(『政経研究』第96号・2010年12月)である。結論的にいうと、氏はNC装置の寿命が短くなっているのでIT革命が一巡するまでは「中小型機械の寿命の最頻値はより短くなっている可能性がある」とみて周期短縮論に左袒しているかにみえる。

だが、周期短縮論を結論づけるにはIT内装型産業機械が実際にどのような使われ方をしているか、実態調査が必要であろう。

ところで冒頭、景気循環の一筋につながったことが氏の研究に豊饒さをもたらしたと述べたが、このことを如実に示す著作が『日本の景気循環と低利・百年国債の日銀引き受け』(勁草書房、2010年)である。

本書は標題が示すように、大別して「日本の景気循環」を扱った部分と「低利・百年国債の日銀引き受け」を扱った部分とからなるが、いずれの部分においても氏の豊饒さがうかがえる。

前者は前著『景気循環の経済学』上梓後の1994年景気循環学会に入会し、自らの景気循環論の応用として、日本経済の90年代不況分析と2000年から世界金融危機までの景気分析をおこなったものである。その中でも「今回の景気回復と『中間恐慌』の基本的性格」(『政経研究』第84号)は、岩下氏の間接恐慌論を踏まえた景気分析である。その中で氏は、2004年～05年にかけての景気の「踊り場」の本質を、氏の理論でいえば典型的な景気回復後の中間恐慌であると断じている。マルクス経済学の分野で、最近、理論を踏まえた本格的な景気分析が見られなくなっているゆえ貴重な貢献である。

また後者についていえば、1990年代後半の金融システム危機の後処理として膨大な資金が必要とされたから、国民負担の小さい資金調達手段として低利・百年国債の日銀引き受けを着想されたのである。本書には「日銀引き受け、百年国債の発行を」(『実業の日本』、3月号)をはじめとする3つの論稿が収められている。

氏の百年国債発行論は、低利(年0.1%)で償却期間百年の国債を発行し、それを日銀が引き受けるというものであるが、ここにおいて、氏は景気循環論から歩を進めて景気対策論・経済政策論を提示するにいたったのである。まさに氏の豊饒さの真骨頂がこ

こに開示された感がる。

だが政府・日銀が隠れケインズ主義（ケインズの名を伏せた財政政策）を採りつつも、正統スタンスとしては金融政策オンリーの新自由主義を採っている状況下では、氏の積極的提言は生かされていない。氏は今回の東日本大震災の復興に関しても、経済理論学会シンポジウムや論文「震災復興と財政再建は0.1% 百年国債で」（『政経研究』第98号）で百年国債の日銀引き受けを提唱されているが、時宜をえた提唱というべきであろう。

なお、この百年国債発行論には後日談がある。岩下氏は1980年代当初からユダヤ人問題に強い関心を持ち、多くの書物を読んできたとのことである。1997年6月のタイのバーツ売りから始まるアジア通貨危機をきっかけに、その仕掛け人であり当時ユダヤの強欲ヘッジ・ファンドとして忌み嫌われていたジョージ・ソロスに強く惹かれ、ついにはノーベル平和賞に値する人物との独自の人物観をもつに至り、その所信を2000年春の現代資本主義研究会で発表、それを受けて出色のソロス論がものされることになったのである（「革命家ジョージ・ソロス（その1）～（その15）」（『アテネ通信』No15～No31、2002年3月～2004年12月参照）。

岩下氏が1998年夏に百年国債の日銀引き受けを提唱された後、嶋中雄二氏が日銀引き受け論をいろいろなところで主張されたこともあってか、翌1999年1月になるとジョージ・ソロスやアメリカのルービン財務長官やサマーズ財務副長官や自民党の野中広務氏なども日本政府や日銀に対し日銀引き受けを要求しはじめた。そこで日銀引き受けだけは絶対やりたくない日銀が苦し紛れにゼロ金利政策を打ち出していく。

岩下氏の学界での評判については、厳しい評価をすることで知られているマルクス経済学と恐慌論の大家である井村喜代子慶応大学名誉教授が、研究会の後の懇親会で本人に対して「岩下さんはオリジナリティがありますね」と言われていたのを聞いたことがある。たしかに『景気循環の経済学』には斬新なアイデアが多く組み込まれているし、岩下氏創始の「百年国債」という用語はインターネットサイトでみると120万万件も出ており、当然ながらそのトップに氏の名前が出ている。

以上、岩下氏の学問的業績を景気循環論を中心にフォローしてきたが、最後に岩下氏と私との交遊の機縁について若干述べさせていただきたい。

岩下氏から、岡田直哉「現段階の景気循環の主要問題について」（『経済』1988年12月、「今日の景気の展開方向」（同、1990年7月号）、「現代資本主義と1991年～92年恐慌の歴史的位置」（同、1992年6月号）を挙げて、『景気循環論の経済学』の中で、「周期的恐慌論にもとづいた非常に的確な景気の現状分析を展開している」と評価していただいた。

岩下氏はその著書を岡田直哉に贈呈しようとして、『経済』の副編集長と電話で話しているうちに、岡田直哉が小松善雄のペンネームであることに気付いたそうである。その縁で私が著書『景気循環の経済学』を『経済』1996年3月号に書評させていただいた。

岩下氏は、平成不況が深刻化していた1998年の初めに「バブル景気と90年代不況」（『経済と社会』第12号、1998年4月、『日本の景気循環と低利—百年国債の日銀引き受け』第4章に所収）を書かれた。氏はその中で、大ベストセラーになった宮崎義一氏の『複合不況』（中公新書、1992年）が出る前に、上に挙げた3本の論文で、小松が繰り返し宮崎氏と本質的に同じ内容で、名前もそっくりな「複合危機説」を唱えていたとことを明らかにしてくれたのである。この氏の労に対して、今でも感謝に耐えない。

「自然科学と同じで、経済学研究の評価は誰が最初に発見したか、誰が最初に斬新な問題を提起したか、誰が最初に問題を解決したかで決まる。宮崎義一氏が1992年に出版した『複合不況』で、それまで何度も書かれていた岡田直哉論文に全く触れていないのはおかしい」と言ってくれたこともある。

とはいえ氏との交遊でもっとも心に残っているのは経済理論学会の全国大会での会話である。氏は温容にして悠揚迫らぬ趣きをもつ性格は気さくで飾ることがない。そうした人柄であるから、また歳が同じと言うこともあって、景気循環にかかわる理論的論点をどう考えるか、景気の現局面をどう見るかなど、語り出したら興味が尽きない。そこで昼間語りあったテーマが延長戦に持ち越され、飲み屋にいたこともある。このことが私にとって大会への参加を促す動機の一つでもあったのである。ただ、日本酒に関しては、銘柄にこだわりなくうまそうに飲んでいる岩下氏より、利き酒判定委員をやっている私の方が断然詳しいし、味の違いも分っているつもりである。

この度、岩下氏は中京大学を退任されることになったが、現在、百年に一度といわれる世界同時恐慌の最中にある。このことの究明をはじめまだまだ氏の活躍を待つ場は多々であって旧に倍してますます弁じていただくことを願ってやまない。そのためにもまずもって御健勝を祈りたい。